

令和 7 年度（2025 年度） 第 2 回小原地域会議 会議録

開催日時	令和 7 年 6 月 3 日（火）	開会	閉会
		午後 6 時 30 分	午後 8 時 30 分
会 場	小原支所 第 1 会議室		
出席者	委 員	竹内正美（会長）、白川悠理（副会長）、景山卓己、大林鐘次、岡田口治、増岡正博、加藤元紀、山内明、成瀬啓一、田澤由佳、鈴木孝典、無州麻美	
欠席者	安藤茂則、成瀬友昭、板倉正典、濱辺誠一、小出透、伊藤大悟		
次 第	開 会 1 会長あいさつ 2 協議事項 ・地域課題解決事業の評価について 3 その他（連絡事項・配布物等） 連絡事項：とよたの山里パートナー 閉会		

◆議事録

報告事項

第 1 回会議において委員から出された意見等（定住サポート事業）に対する回答を行った。

意見：問い合わせ件数が多い割に入居が決まらないのは、物件に魅力が感じられないのではないかな。

回答：今年度 2 か月間で 9 件の問い合わせ（内覧）があったが、入居は 1 件のみ。好条件の物件が少なくなってきたことが要因。空き家は「地域の共有財産」と捉え、良い物件の登録してもらえよう定住促進委員会の活動を通じて、地域みなさんに積極的に働きかけていく。

意見：入居が決まらなかった理由を把握して、どのような条件が好まれるかを探ることが必要ではないかな。

回答：今までも入居が決まらなかった方には、その理由を伺っている。周辺環境、立地条件、そして何よりも物件の老朽劣化状況に不満があるとの意見が多数。

意見：ホームページで物件案内がされているが情報が少ない。ペットや菜園など目的別に表示できないかな。

回答：希望者のニーズは多岐にわたり、情報を網羅することは困難。支所への問い合わせの際に丁寧な聞き取りをし、物件所有者にも意向確認をしながらお答えしている。

意見：空き家改修費補助の上限金額が現状にそぐわない。

回答：近隣自治体と比較しても、豊田市の上限額は遜色ないと考える。改修費補助の他にも山

村地域への移住、定住を誘導する仕組みとして、家を買いたい人向けの「定住応援補助金」や空き家を片付けたい人向けの「空き家情報登録バンク促進事業補助金」農業を始めたい人の「農地取得の制限緩和特例」といった支援制度を設けている。

協議事項：地域課題解決事業の評価について

令和6年度に実施した地域課題解決事業（7事業）について、各委員の評価をもとに改善点等を話し合った。

①小原マルシェ創出事業

委員からの意見等

- ・小原らしさを感じられるものにすることがある。
- ・出店者をマルシェ実行委員会が選定すればコンセプトが生まれ、他のマルシェと差別化が図られるのではないかな。
- ・賑わいの場としてみれば、小原以外の出店者が多くてもいいのではないかな。
- ・マルシェ単体での開催では集客も難しいと思われる。最近のように他の行事とコラボする形が良い。
- ・小原地区内のPRはされているが、藤岡や街中への周知が足りていない。どんなものを扱っているかの店情報も足りていない。
- ・以前開催されていた「419市」にはかなりの賑わいを見せていた。自由に出店できる仕組みがその理由で、今のマルシェには制限が多すぎるのではないかな。
- ・プロデューサー的立場の人がいないとマルシェの目的もはっきりしない。

②耕作放棄地整備支援事業

- ・現状、放棄地の草刈り等を行っているだけで、米や野菜を作るという農地の活用に至っていない。
- ・農業をやってみたいという人は多いが、やり方がわからない、農機具を購入してまではと二の足を踏んでいる。使わなくなった農機具を貸し借りできるような仕組みが必要。
- ・地域の人が耕作放棄地を管理するというやり方だけでは限界を迎えている。外部にも委託費として支援できる仕組みが取れないかな。
- ・耕作放棄地は狭小で、機械の導入が困難である。排水など農地自体の改良にも補助できる仕組みにならないかな。

まとめ

- ・小原マルシェ創出事業及び耕作放棄地整備支援事業については継続実施で了承。ただし、改善が必要なものについては引き続き審議を行っていく。